

本文（磯丸の歌）

（伊良湖遊歩道磯丸歌碑による）

- 1 明神の石のしゃだんでながむればおきで漁師が船をこぎます
- 2 朝草にかりこめられてきりぎりすわれもなくかやおれもなくなり
- 3 いろ白はいつ来てみてもおゆりさん浜辺にすめど色はかわらじ
- 4 夏ころもきてもみよかしいらこ崎涼しき浪のよるの月かけ
- 5 あおぎみるわが心まで大空にみちこそわたれもち月のかけ
- 6 心なきものとはいわじ草も木もかぜのかよえばこゑかわすなり
- 7 いづくぞと鬼のすみかをたづぬればおのが心のうちにこそすめ
- 8 人はただ下を見てゆけみち直（すぐ）に上に目のつくかにはよこばい

※『新編磯丸全集』等の文献と表記の違う部分もあるが、ここでは歌碑のとおり
に記した。